

全国救急隊員シンポジウムが札幌市で開催

救急企画室

1 全国救急隊員シンポジウムとは

「第24回全国救急隊員シンポジウム」が、一般財団法人救急振興財団と札幌市消防局との共催により、12月3日（木）と4日（金）の2日間にわたって、札幌市（札幌コンベンションセンター）で開催されました。

この「全国救急隊員シンポジウム」は、我が国の救急業務の充実と発展に資することを目的に全国の救急隊員や消防職員、都道府県や消防学校の職員、その他関連する医療従事者等、救急業務に関係する者が一堂に会し、実務的観点からの研究発表や意見交換を行っているもので、平成5年より毎年1回、救急振興財団と開催地消防本部とで共同開催されており、今年で24回を数えました。



消防庁長官祝辞（開会式）



リスキュー（左）とマルヤマン（右）

性について、認識が広がる中、子ども達に心肺蘇生法を覚えてもらおうと、女性消防団員が熱心に心肺蘇生法を指導していました。

一般発表『通信指令』では、昨年度に消防庁から報告された通信指令員の救急に係る教育テキストを活用した教育実施例、通報者に胸骨圧迫のリズムをBGMのように発信する取組、さらには、呼吸の有無を認識するための様々な研究例が発表され、会場を入場制限するほどの大盛況でした。

スキルアップトレーニング『救急現場での分娩基礎知識』では、「救急隊員がめったに遭遇しない事案であるからこそ、救急隊員の学習する場が必要である。」という話に、救急隊員は熱心に耳を傾けていました。



市民公開講座



『救急現場での分娩基礎知識』の様子

2 今回のシンポジウムの内容について

今回のシンポジウムは、平成16年1月の第12回全国救急隊員シンポジウム以来、札幌市で開催されるのは2回目となりました。その札幌で、「北緯43°から新たな救命への軌跡を」～札幌発！なまら熱い決意！～というメインテーマを掲げて開催されました。

開会式直後の特別講演では『北緯43°から新たな救命への軌跡を』というテーマで北海道大学の丸藤哲教授をはじめとして、北海道内の救急に携わる医師より、20年前から全国に先駆けて創設した救急ワークステーションの役割や救急隊員の再教育と相互理解の重要性、さらには、救急医療システムやドクターカーとドクターヘリの運用状況等についての貴重なご講演をいただきました。

また、市民公開講座『マルヤマン&リスキューと覚える心肺蘇生法』では、学童期からの心肺蘇生教育の重要

3 地元関係者の熱心な取組

当日は、北海道内はもとより、全国各地から約5,400名（2日間延総人数）の関係者が来場し、盛大なシンポジウムとなりました。これもひとえに、主催者である一般財団法人救急振興財団や札幌市消防局をはじめ、地元医師会等関係各機関の皆様が一致協力してシンポジウム運営にあたられたご尽力の賜物であるといえます。今後もこのシンポジウムが救急業務の更なる充実と発展に資するものとなることを期待しています。

なお、次回の「第25回全国救急隊員シンポジウム」は、平成29年1月26日（木）及び27日（金）の2日間、神戸市において開催されます。

問い合わせ先

消防庁救急企画室 山口（智）
TEL: 03-5253-7529